

CONTENTS	ページ
ごみ袋の料金を変更	2
新規採用職員を募集ほか	3
カミツキガメに注意ほか	4
お知らせ掲示板ほか	5~7
人権・同和教育シリーズ	8



市民文化会館のロゴマーク完成

12月20日に開館する市民文化会館「水都やながわ」のロゴマークが完成しました。同館は「水上に浮かぶ柳川の舞台」がコンセプト。ロゴマークは「水」と「波」をイメージし、掘割が見せる表情に合わせて展開する多様性を表現しています。デザインを担当した垣外波瑠香さん（写真右）と甲斐恵佳さんは、「施設での文化のにぎわいが掘割のゆるやかな波のように広がってほしい」とロゴマークに込めた思いを語ってくれました。



12月に開館する市民文化会館の完成イメージ図

広報やながわ 令和2年7月15日号 No.367

●発行 柳川市 / 〒832-8601 福岡県柳川市本町 87-1
●編集 総務部企画課広報広聴係（直通） ☎0944-77-8425 FAX74-5520
●URL <https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/> ●e-mail kouin@city.yanagawa.lg.jp

「広報やながわ」は、年齢や障がいの有無などを問わず、できるだけ多くの人から読めるように、ユニバーサルデザインを導入しています。



中山小中学校では、総合的な学習の時間を中心に「人権」について学習しています。学習を進めるうちに、差別に負わずに闘ってきた人々を知り、差別をなくしたいと強く感じた児童たち。そこで、多くの人に読んでもらうためにリーフレットにまとめました。今回は、そのリーフレットの一部を紹介します。

中山小の児童が作成したリーフレットを紹介

〔問〕市人権・同和教育推進室（☎77・8842）



全ての人が使いやすく

みなさんは、このようなトイレを見たことがありますか？例えば、もし、男性用・女性用と決められたトイレに、女性だけが男性の心を持っている方は、どちらに入ったらいいのでしょうか。右のようならよいのでしょ。右のようならトイレがあることで、さまざまな方がトイレを使いやすくなりますよね。障がいがあるだけでなく、さまざまな方が気持ちよく過ごせるようなという考えから、このようなトイレの設置が少しずつ広がってきています。

教科書無償運動に学ぶ

知っていますか？小中学校の教科書が無償になるように運動したお母さんたちのことを。差別で厳しい生活を送っている人たちは教科書を子どもに買ってあげることができずにいました。差別で安定した仕事に就けない↓生活が厳しい↓教育を受けさせることができない↓仕事に就けないという悪循環。そんな生活の中でも、学習会をし、「義務教育は、これを無償とする」という憲法を知り、教科書が無償にする運動をはじめました。あきらめずに要求を続け、一部の人たちの教科書が無償になりました。しかし、目指したのは、すべての小中学生の教科書無償。「この運動は正しい」と全国に広がり、教科書無償が実現しました。

部落差別の歴史

現在の部落差別は、平安時代の「ケガレ観」から始まっているともいわれています。室町時代では、太鼓や馬具、庭造りなどの卓越した技術を持った人々に対する「異質性」が差別意識となって民衆にも広がりました。江戸時代には、身分制度が確立され、職業・住居も分けられ差別が固定化されていきました。

明治時代の解放令によって、身分制度はなくなりました。しかし、政策の不十分さにより、現在でも差別意識が残っています。人が作った差別は私たちがなくしていきましょう。新型コロナウイルスの感染拡大により、人権作文は8月15日号から掲載します。

リーフレット全体を
読みたい人は右の
QRコードから